

小児科 研修プログラム

1 研修先

小児科

2 指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

3 診療科基本スケジュール

- (1) 研修期間 必修研修 5週間（うち1週間は院外研修）
 自由選択研修 4週間 ※自由選択が1回目の研修は当該期間を短縮することはできない（延長は可）が、2回目以降の研修は短縮することができる。

(2) 配置予定

	必修研修	自由選択研修
病棟	指導医の元で患者受け持ち、診察・検査など行い、診療録に記載	指導医の元で患者受け持ち、診察・検査・処置など行い、診療録に記載
外来	指導医により一般外来診療を研修するとともに、専門外来で慢性疾患の理解を深める。小児救急患者については、指導医とともに救急業務を行い、指導医のもとに急患診療を行う。	指導医により一般外来診療を研修するとともに、専門外来で慢性疾患の理解を深める。小児救急患者については、指導医とともに救急業務を行い、指導医のもとに急患診療を行う。
検査	指導医の元に検査などを行う。採血、静脈ライン確保、皮下注射などを身に付ける。	指導医の元に検査などを行う。左記の他、機会があれば髄液検査、超音波検査、脳波検査なども行う。
その他	病棟カンファレンスで、担当患者の病態、検査結果、治療方針を説明する。	病棟カンファレンスで、担当患者の病態、検査結果、治療方針を説明する。

(3) 週間予定表 *講義は病棟カンファレンスルームで行うが、日程適宜変更あり

	午前	午後
月	入院患者診療 検査・処置	病棟カンファレンス 抄読会 共通1週目講義：虐待と発達検査 慢性疾患外来 検査・処置
火	入院患者診療 検査・処置 一般外来	病棟カンファレンス 共通1週目講義：糖尿病・内分泌 慢性疾患外来 検査・処置
水	同上	病棟カンファレンス 慢性疾患外来 検査・処置
木	同上	病棟カンファレンス 共通1週目講義：水・電解質 乳児検診、検査・処置
金	同上	病棟カンファレンス 共通1週目講義：痙攣疾患と対応

4. 研修目標

- ・小児科医としてこどもおよび家族に対して自然で暖かい態度で接する姿勢を学ぶ。
- ・小児に不安感を起こさせず、診察を行い、十分な理学的所見をとることができる。
- ・小児の軽症な急性疾患の診療ができる。

- ・小児の診療に必要な基本手技（採血・点滴など）ができる。
- ・小児・新生児の救急患者の状態を把握し、診察、必要な検査、その後の対応ができる。
- ・小児の重症慢性疾患の病態を理解し、診療の基礎を学ぶ。
- ・必要な事項をPOSに沿った診療録への記載ができる。
- ・病棟カンファレンスなどで、担当患者の病態、検査結果、治療方針を説明する。

#	代表的行動	知識	態度	技能
①-1	発熱の鑑別を行い、診察、必要な検査を検討、実施する。	●		
①-2	けいれん発作が止まっているかを判断し、必要な処置、検査を行う。	●		●
②-1	診察時、患者の困りごとがあれば介入の必要性につき上級医と相談し対応を検討する。		●	
②-2	退院に向け、医療ケア、在宅支援の要・不要を他職種と相談し対応を検討する。		●	
③-1	予防接種、健診の役割を理解し、患者の予防接種状況を確認する。必要に応じて家族に接種予定を指導する。	●	●	

#	代表的行動	知識	態度	技能
①-1	子どもの家族から情報収集をする（周産期歴、既往歴、家族歴、家族背景、予防接種状況、健診状況等）。	●	●	●
			●	●
②-1	子どもの年齢（乳児、幼児、学童期）に合わせた診察をする。	●		●
②-2	泣いている子どもに声かけをしながら診察する。		●	●
②-3	緊急性の有無をPATで評価する。	●		
②-4	体重に合わせた薬剤選択、処方を行う。	●		●
③-1	入院患者のカルテ記載をする。アセスメント、プランについて上級医と相談する。		●	●
③-2	退院時サマリーを作成する。		●	

5. 経験すべき症候・疾病・病態（赤字下線付きは必須項目）

経験すべき症候（※1）	体重減少・るい瘦、発疹、発熱、頭痛、意識障害・失神、けいれん発作、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、 <u>成長・発達</u> の障害
経験すべき疾病・病態（※2）	急性上気道炎、 <u>気管支喘息</u> 、急性胃腸炎、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、糖尿病、脂質異常症

- ※1 外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。
- ※2 外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

6 経験すべき手技

採血法（静脈血）、注射法（皮下・点滴・静脈確保）、胃管の挿入と管理、心電図の記録、超音波検査（心・腹部）

7 実際の業務

- ・受け持ち患者の診察を行い、診療録に記載する。
- ・病棟カンファレンスで患者の病態、検査結果、治療方針を説明する。
- ・指導医のもと採血などの検査を行う。
- ・指導医とともに紹介患者などの急患診療を行う。
- ・指導医とともに乳児健診を行う。
- ・抄読会で小児疾患に関する外国論文を簡潔にまとめ、プレゼンテーションする。

8 指導内容

- ・ベッドサイドでのリアルタイムな指導・フィードバック
- ・症例プレゼンテーション・診療録に関するフィードバック
- ・紹介状や退院サマリーの確認とフィードバック
- ・個々の症例に対する病態の解説、治療方針に関する説明

9 方略・評価

- ・基本スケジュールに沿って研修を行うほか、講義受講、抄読会のプレゼンテーションや病棟カンファレンスなどを実施する。
- ・指導医から研修終了時にフィードバックを受ける。

10 JR 広島病院での必修研修（小児科研修5週目）

（1）研修先・担当分野

JR 広島病院 小児科

（2）指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

（3）週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
月		病棟回診 外来診療					病棟回診 外来診療	予防接種					
火		病棟回診 外来診療					病棟回診 外来診療	乳幼児健診					
水		病棟回診 外来診療					病棟回診 外来診療	予防接種					
木		病棟回診 外来診療	一般外来研修 (0.5日×1~2日)				乳児院への診療に同行						
金		病棟回診 外来診療					病棟回診 外来診療		予防接種				

（4）研修内容

小児のプライマリ・ケアの修得を目的とし、予防接種・乳幼児健診を中心とした小児保健の理解と実行、一般のよくみられる小児科外来、入院患者の診断と治療、小児疾患への理解と対処の仕方、基本的な診療手技（診察の仕方、採血、点滴、ウイルス検査など）の修得、小児科の診療録の記載と症例のまとめ、乳児院などの小児施設の見学と小児の療育環境・子育ての理解を研修する。

11 広島市立舟入市民病院での自由選択研修（研修受入可能の場合のみ：小児科研修4週中1週）

研修内容等については、新生児科研修プログラムを参照